

人を対象とする医学系研究についての「情報公開文書」

研究課題名：急性期血行再建術における M2 残存閉塞枝の分類と検討

・はじめに

発症 8 時間以内までの主幹動脈（頸動脈・椎骨脳底動脈）閉塞による急性期脳梗塞に対して脳血管内手術を行うことができます。閉塞部位へ血栓回収機器を誘導し再開通させる治療です。発症から再開通までの時間が短いほど後遺障害は軽減します。また、広い再開通還流領域が得られると後遺障害が少ないことも知られています。血栓回収機器の進歩もあり再開通率は改善してきています。中大脳動脈水平部（M1）まで再開通できていても、中大脳動脈島部（M2）以降が十分でなければ後遺障害は重度となります。M1 から M2 は 2-3 本に分岐しますが、1 本は再開通しても閉塞枝が残存することがあります。M2 は 1-1.5mm 程度の細い動脈であり、機械的操作により出血するなど合併症のリスクが内頸動脈、M1 よりも高まります。本研究では急性期脳梗塞のカテーテル治療において積極的な再開通を安全に行うための所見を術中血管撮影から見出すことを目的とします。

こうした研究を行う際には、血液、組織、細胞など人のからだの一部で、研究に用いられるもの（「試料」といいます）や診断や治療の経過中に記録された病名、投薬内容、検査結果など人の健康に関する情報（「情報」といいます）を用います。ここでは、既に保管されているこうした試料や情報の利用についてご説明します。

・研究に用いる試料や情報の利用目的と利用方法（他機関に提供する場合にはその方法を含みます）について

研究に用いる情報は電子カルテ記載、術前後画像、手術記録などから得ます。それらを個人が特定できないようなデータ表を作成し、統計処理ソフトなどを利用して解析します。共同研究施設である前橋赤十字病院の情報は研究責任者が分担者の許可を得た上でデータの収集を行います。本研究で得られた結果から急性期脳梗塞に対する急性期血行再建術中の治療続行可能例を判別することができる知見が得られます。よって、手術の安全性が増す事へ繋がると考えられます。以上の内容を学会や論文として発表し、医学の発展の一助となるように使用させていただきます。共同研究施設である前橋赤十字病院にも研究結果

を提供します。

・研究の対象となられる方

2014年4月1日から2017年6月30日までの間に群馬大学病院脳神経外科と前橋赤十字病院脳神経外科に入院し、発症8時間以内までの主幹動脈（頸動脈・椎骨脳底動脈）閉塞による急性期脳梗塞に対して脳血管内手術（カテーテル治療）を受けた約150例を対象とします。意識がない方、死亡されている方も対象となります。代諾者は3親等以内の血縁関係のある家族のみとします。

対象となることを希望されない方（代諾者も可）は、相談窓口（連絡先）へご連絡ください。希望されなかった方の試料または情報は、研究には使用しません。

ただし、対象となることを希望されないご連絡が2017年10月1日以降になった場合には、研究に使用される可能性があることをご了承ください。

・研究期間

研究を行う期間は医学部長承認日より2022年3月31日までです。

・研究に用いる試料・情報の項目

本研究では群馬大学病院脳神経外科、前橋赤十字病院脳神経外科で治療受けられた方のカルテ記載内容、手術記事、術前後の画像検査、術中の血管撮影所見を用います。後方視的に年齢、性別、閉塞部位、術前の虚血範囲、塞栓病型、使用デバイス、血管撮影所見、再開通グレード、合併症などを調査して、それらについて統計学的手法を用いて解析します。

・予想される不利益(負担・リスク)及び利益

本研究により被験者となった患者さんが直接受けることができる利益はありませんが、将来研究成果は急性血行再建術を合併症発生のリスクを低減させ、安全性を高めるための知見となり、多くの患者さんの治療と健康に貢献できる可能性が高いと考えます。この研究では、通常診療下で行われた治療内容および診察・検査の結果を調査するため、個人情報を取り扱います。個人情報の取り扱いには、研究の倫理指針を遵守して細心の注意を払います。個人情報の漏えい、滅失、き損などの可能性をすべて否定するものではありません。万が一、個人情報の漏えい等が発生した場合には、研究を中止し、その内容等を公表致します。

・ **個人情報の管理について**

個人情報の漏洩を防ぐため、群馬大学医学系研究科脳神経外科学講座においては、個人を特定できる情報を削除し、データの数字化、データファイルの暗号化などの厳格な対策を取り、第三者が個人情報を閲覧することができないようにしています。

また、本研究の実施過程及びその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は含まれません。

・ **試料・情報の保管及び廃棄**

研究により得られた情報は、群馬大学医学系研究科脳神経外科学講座の鍵のかかる部屋に置かれた PC で管理されます。PC はパスワードでロックされています。管理責任者は群馬大学医学系研究科脳神経外科学助教山口玲が行います。研究のために集めた情報は、当院の研究責任者が責任をもって上記場所で保管します。個人を識別するための対応表は、研究終了後 5 年後に破棄します。

・ **研究成果の帰属について**

この研究により得られた結果が、特許権等の知的財産を生み出す可能性があります。その場合の特許権等は研究者もしくは所属する研究機関に帰属することになり、あなたにこの権利が生じることはありません。

・ **研究資金について**

この研究には委任経理金を資金とします。

・ **利益相反に関する事項について**

研究グループが公的資金以外に製薬企業などからの資金提供を受けている場合に、臨床研究が企業の利益のために行われているのではないかと、あるいは臨床研究の結果の公表が公正に行われたいのではないかと（企業に有利な結果しか公表されないのではないかと）などといった疑問が生じることがあります。これを利益相反（患者さんの利益と研究グループや製薬企業などの利益が相反している状態）と呼びます。この研究の利害関係については、群馬大学利益相反マネジメント委員会の承認を得ております。また、この研究過程を定期的に群馬大学利益相反マネジメント委員会へ報告などを行うことにより、この研究の利害関係について公正性を保ちます。

・「群馬大学 人を対象とする医学系研究倫理審査委員会」について

この研究を実施することの妥当性や方法については、多くの専門家によって十分検討されています。群馬大学では人を対象とする医学系研究倫理審査委員会を設置しており、この委員会において科学的、倫理的に問題ないかどうかについて審査し、承認を受けています。

(ホームページアドレス：<https://www.rinri.amed.go.jp/>)

・研究組織について

この研究を担当する研究責任者、研究分担者は以下のとおりです。

研究責任者

所属・職名：群馬大学医学系研究科脳神経外科学助教

氏名：山口玲

連絡先：(027)-220-8515

研究分担者

所属・職名：群馬大学医学系研究科脳神経外科学講師

氏名：藍原正憲

連絡先：(027)-220-8515

研究分担者

所属・職名：群馬大学医学系研究科脳神経外科学講師

氏名：清水立矢

連絡先：(027)-220-8515

研究分担者

所属・職名：群馬大学医学系研究科脳神経外科学教授

氏名：好本裕平

連絡先：(027)-220-8515

研究分担者

所属・職名：前橋赤十字病院脳神経外科学部長

氏名：朝倉健

連絡先：(027)-224-4585

・研究対象者の権利に関して情報が欲しい場合あるいは健康被害が生じたとき

に連絡をとるべき相談窓口について

研究対象者がこの研究および研究対象者の権利に関してさらに情報が欲しい場合、または研究対象者に健康被害が発生した場合に、研究対象者が連絡をとる担当者は下記のとおりです。何かお聞きになりたいことがありましたら、どうぞ遠慮なくいつでもご連絡ください。

試料・情報を研究に用いることについて、対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。研究対象者とならない場合でも不利益が生じることはありません。

【問合せ・苦情等の相談窓口（連絡先）】

所属・職名：群馬大学医学系研究科脳神経外科学（講座・分野等）教授（責任者）

氏名： 好本裕平

連絡先：〒371-8511

群馬県前橋市昭和町三丁目 39-22

Tel：027-220-8515

担当：山口玲

上記の窓口では、次の事柄について受け付けています。

- (1) 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法 他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。
- (2) 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続（手数料の額も含まれます。）
- (3) 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明
- (4) 研究対象者から提供された試料・情報の利用に関する通知
試料・情報の利用目的および利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）
利用し、または提供する試料・情報の項目
利用する者の範囲
試料・情報の管理について責任を有する者の氏名または名称
研究対象者またはその代理人の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用または他の研究機関への提供を停止すること、およびその求めを受け付ける方法

